

株式会社丸井グループ

2021年3月期 第3四半期決算概要

〇|〇|
MARUI GROUP
2021年2月8日

加藤でございます。よろしくお願いいたします。

改めまして、本日は、お忙しい時間にかかわらず当社第3四半期決算電話会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、決算概要資料に沿って、2021年3月期第3四半期決算概要について、ご説明させていただきます。

- ① EPSはコロナ影響により30%減の64.8円
- ② 連結営業利益は286億円（13%減）と5年ぶりの減益
- ③ 小売セグメントの営業利益は77%減、
フィンテックセグメントの営業利益は4%増
- ④ 営業利益に対するコロナ影響は、小売セグメント△52億円、
フィンテックセグメント△17億円
- ⑤ 当期利益は休業期間中の固定費を一部特別損失として
計上した影響もあり30%減の139億円、6期ぶりの減益

まず、決算ダイジェストのページをご覧ください。

今期のダイジェストは5点ございます。

1点目は、EPSですが新型コロナ影響により30%減の64.8円となりました。

2点目、連結営業利益は13%減の286億円で、5年ぶりの減益となりました。

3点目は、セグメント別営業利益ですが、小売が77%減の18億円、
一方フィンテックは4%増の316億円と5期連続の増益となりました。

4点目、営業利益におけるコロナ影響につきましては、
小売セグメントでマイナス52億円、フィンテックセグメントでマイナス17億円の
影響があったとみています。

5点目、当期利益は休業期間中の固定費を一部特別損失として計上した
影響もあり、30%減の139億円で、6期ぶりの減益となりました。

	20年3月期 第3四半期		21年3月期 第3四半期		前年比 (%)	前年差
EPS (円)	92.0		64.8		70	△27.1
	兆	億円	兆	億円	%	億円
グループ総取扱高	2	1,743	2	1,637	100	△105
売上収益	1,864		1,645		88	△219
売上総利益	1,490		1,347		90	△143
〈リカーリングレベニュー〉	984		910		92	△74
販管費	1,161		1,061		91	△100
営業利益	329		286		87	△43
(通期業績・通期予想に対する進捗率)	(78%)		(81%)		—	—
当期利益	199		139		70	△60

それでは決算の概要を説明させていただきます。決算概要資料2ページの連結業績の表をご覧ください。

中期計画のKPIとしておりますEPSは、30%減の64.8円となり、新型コロナ影響により、前年を下回りました。

グループ総取扱高は、第3四半期単独では前期比7%増となり、累計で2兆1,637億円と前年水準まで回復いたしました。

小売セグメントの取扱高は、累計で33%減、通期見通しの前提としておりました

11月以降の基調80%に対し、11月・12月期累計の基調は81%でした。

フィンテックセグメントの取扱高は、累計で2%増、通期見通し前提の11月以降の基調107%に対し、11月・12月累計の基調は106%となり、小売・フィンテックともに、ほぼ見通し通りに推移しました。

売上収益は、小売セグメントが27%減、フィンテックセグメントが1%減で、連結では12%減の1,645億円となりました。

売上総利益は、10%減の1,347億円、売上総利益ベースでのリカーリングレベニューは休業期間の家賃減免の影響もあり、8%減の910億円、リカーリングレベニューの構成比は66%となっております。

販管費は、休業期間中の固定費を特別損失に70億円振り替えたことなどにより、前年より100億円減少し、1,061億円となりました。

その結果、営業利益は13%減の286億円となり、5年ぶりの減益となりました。

通期予想に対しての進捗率は81%となっております。

第3四半期単体での営業利益計画は公表しておりませんが、取扱高が見通し通りに推移したため、概ね計画通りの推移となっております。

当期利益につきましては、休業中の固定費等の感染症対策費用を特別損失に77億円計上したことなどで、30%減の139億円、6期ぶりの減益となりました。

セグメント別利益の状況

	営業利益				ROIC	
	20年3月期 第3四半期	21年3月期 第3四半期	前年比	前年差	21年3月期 第3四半期	前年差
	億円	億円	%	億円	%	%
小売	77	18	23	△59	0.6	△2.0
フィンテック	303	316	104	+12	3.8	+0.3
全社・消去	△51	△48	—	+4	—	—
連結	329	286	87	△43	2.6	△0.3

続きまして、3ページ、セグメント別利益の状況をご覧ください。

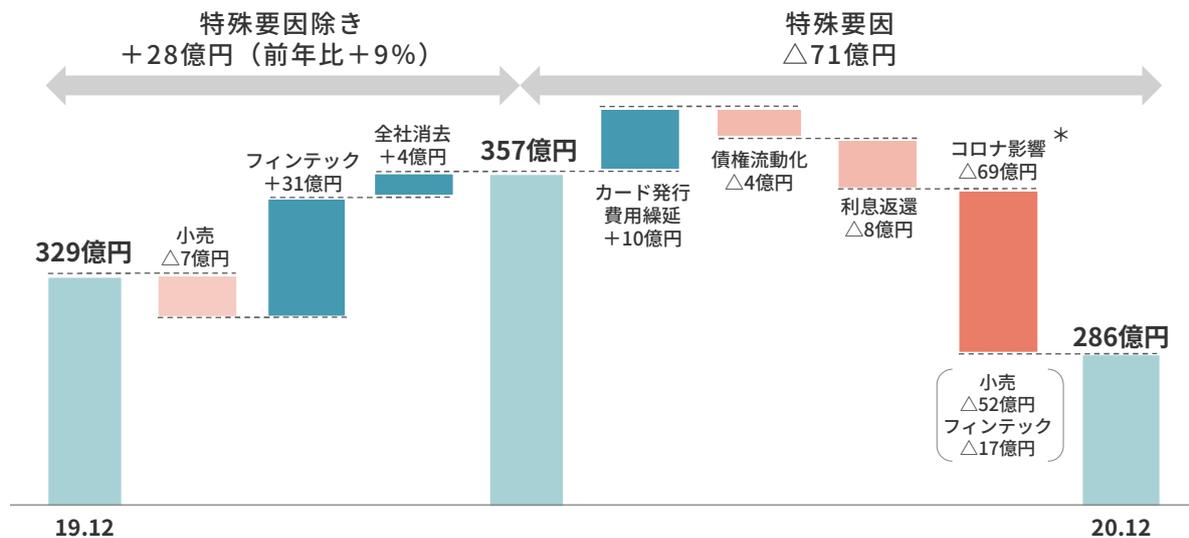
小売セグメントの営業利益は77%減の18億円、フィンテックセグメントの営業利益は4%増の316億円で、5期連続の増益となりました。

営業利益の増減要因につきまして、後ほど詳しくご説明いたします。

全社消去は本社経費の減少等により、4億円減少し、連結営業利益は13%減の286億円となりました。

営業利益増減の内訳

- ・ 連結営業利益はコロナ影響を含む特殊要因を除くと、9%増の28億円増益



*コロナ影響：今期が、前期のコロナ前（2019年4月～2020年2月）の基調で推移したと仮定した場合との差

次に、4ページ、営業利益増減の内訳についてご説明いたします。

営業利益増減の特殊要因として、昨年度の第4四半期より、LTV経営推進に向けたカード発行費用の繰り延べを実施し、10億円の増益要因となりましたが、債権流動化の償却や、上半期に行った利息返還引当金の積み増しの増加に加え、コロナ影響で69億円のマイナスが発生しており、差し引き71億円の減益要因となりました。

このため、これらの特殊要因を除いた実質的な連結営業利益は、9%増の357億円と推計しています。

実質増減益のセグメント別の内訳については、小売セグメントが7億円の減益、フィンテックセグメントが31億円の増益となりました。

フィンテックセグメントの状況

	20年3月期 第3四半期	21年3月期 第3四半期	前年比	前年差
	万人	万人	%	万人
新規会員数	60	37	62	△23
(丸井グループ店舗外入会)	(34)	(27)	(81)	(△6)
カード会員数	714	711	100	△3
プラチナ・ゴールド	240	267	111	+27
	兆 億円	兆 億円	%	億円
フィンテック取扱高	2 0,029	2 0,492	102	+463
ショッピング	1 6,297	1 6,301	100	+4
(外部加盟店)	(1 5,538)	(1 5,787)	(102)	(+249)
サービス	2,570	3,354	131	+784
カードキャッシング	1,098	773	70	△325
営業債権残高(流動化債権を含む)	7,592	7,510	99	△82
ショッピングリボ・分割払い	3,585	3,553	99	△32
カードキャッシング	1,517	1,333	88	△185
貸倒率(%)	1.36	1.52	—	+0.16

次に、5ページ、フィンテックセグメントの状況についてです。

第3四半期の新規カード会員数は、第1四半期における店舗の休業、およびその後の入店客数の減少等の影響で前年に対して23万人減の37万人となりました。

12月末のカード会員数は前年に対して3万人減の711万人となりました。一方プラチナ・ゴールド会員は27万人増の267万人、総会員数における構成比は38%となり、メインカード化が着実に進んでおります。

取扱高に関しては、プラチナ・ゴールド会員取扱高が全体を牽引したほか、家賃保証ビジネスの拡大にともない、2%増の2兆492億円となり、コロナ禍においても、第3四半期で過去最高の取扱高となりました。

流動化債権を含むショッピングのリボ・分割払い残高は、ほぼ前年並みの3,553億円となりました。また、流動化債権を含むキャッシングの残高は、コロナ禍における現金需要の低下から12%減の1,333億円となりました。

また、貸倒率は営業債権残高が伸びなかった影響もあり、前年をやや上回るものの、貸倒費用は前年比4%減と、貸倒に関して、今のところ極端な動きはございません。

利息返還の状況につきましては、先行指標である受入高が直近でも横ばいから、やや前年を上回る状況で推移しており、今後の受入高の動向を注視してまいります。

バランスシートの状況

	20年3月末	20年12月末	増減
	億円	億円	億円
営業債権	5,556	5,658	+102
（債権流動化額：外書）	(1,819)	(1,853)	(+33)
〔流動化比率（%）＊1〕	[24.7]	[24.7]	[0.0]
割賦売掛金	4,163	4,463	+301
営業貸付金	1,393	1,194	△199
固定資産	2,592	2,737	+145
投資有価証券	274	471	+197
有利子負債	4,798	4,842	+44
〔営業債権比（%）＊2〕	[86.4]	[85.6]	[△0.8]
自己資本	2,898	3,042	+144
〔自己資本比率（%）〕	[32.7]	[33.1]	[+0.4]
総資産	8,860	9,193	+334

＊1 流動化比率＝債権流動化額／（営業債権＋債権流動化額）

＊2 営業債権比＝有利子負債／営業債権

6

次に、6ページ、バランスシートの状況についてご説明いたします。

流動化比率は、2021年3月期の目安25%に対して、12月末は24.7%となりました。

営業債権は取扱高の回復等により前期末から102億円増加し、それに伴い有利子負債も44億円増加いたしました。

営業債権に対する有利子負債の比率は、85.6%、自己資本比率は、33.1%となっております。

キャッシュ・フローの状況

	20年3月期 第3四半期	21年3月期 第3四半期	前年差
	億円	億円	億円
営業キャッシュ・フロー	114	198	+84
営業債権等の増減（△は増加）	△166	56	+223
基礎営業キャッシュ・フロー *	280	141	△139
投資キャッシュ・フロー	△151	△150	+1
固定資産の取得	△90	△88	+2
投資有価証券の取得	△63	△45	+18
保証金返還他	2	△17	△19
財務キャッシュ・フロー	△49	△59	△10
有利子負債の増減（△は減少）	136	43	△93
配当金の支払	△117	△101	+16
自己株式の取得他	△68	△1	+67
現金及び現金同等物の期末残高	381	397	+16

* 基礎営業キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー - 営業債権等の増減

7

次に、7ページ、キャッシュ・フローの状況でございます。

基礎営業キャッシュ・フローは、税引前利益の減少等により、前年に対して139億円減少いたしました。

また、固定資産の取得や、スタートアップ企業への投資、お取引先さま支援策としての保証金の返還などで、投資キャッシュ・フローは前年並みの150億円のキャッシュアウトとなりました。

共創投資の状況

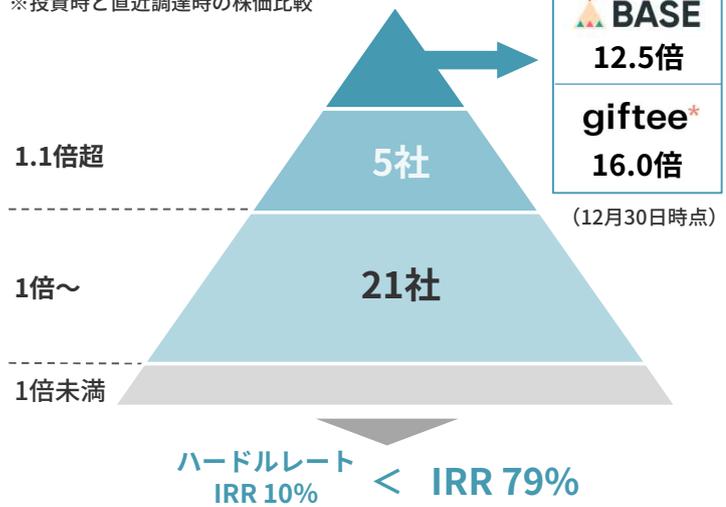
■20年12月末 投資状況

tsumiki証券	19億円
D2C & Co.	16億円
ベンチャー	111億円
ファンド	57億円

累計203億円

■投資先28社の状況

※投資時と直近調達時の株価比較



*IRR：保有する有価証券のうち、対象とする銘柄につき直近調達時価格、上場株は各会計期末時点で売却したものと仮定し算出

8

次に、8ページ、共創投資の状況についてでございます。

丸井グループでは新たな成長に向け、投資リターンや配当だけを目的とするのではなく、互いの強みを出し合い、シナジーを発揮していただけるスタートアップ企業に対し、積極的に投資を進めております。

2023年3月期までに300億円の計画に対して、第3四半期までで累計約203億円の投資を行いました。

一昨年上場した投資先である、BASE、ギフトィの株価が上昇した影響で、現在、投資利回りを示すIRRは79%とハードルレートの10%を大きく上回っております。

ESGの状況について



- ・ D J S I World Index構成銘柄、CDP『気候変動Aリスト』企業にそれぞれ選定
- ・ 「みんな電力エポスプラン」をスタート、お客さまへの再エネ利用を促進

■おもな外部評価

- ・ 2020年11月 D J S I World Index構成銘柄に選定、小売分野において世界1位を獲得
- ・ 2020年12月 CDPより最高評価の『気候変動Aリスト』企業として認定

Member of

**Dow Jones
Sustainability Indices**

Powered by the S&P Global CSA

3年連続



3年連続

■環境課題解決の取り組み

- ・ 2020年9月「みんな電力エポスプラン」をスタート、エポスカード会員向けに再エネ電力の利用をスマホ経由で簡単に申し込めるシステムを開発
- ・ 2020年10月「みんな電力エポスカード」の発行をスタート
- ・ 利用客50万人、年間100万トンのCO2削減をめざす

みんな電力エポスプラン



次に、9ページ、ESGの状況についてご説明いたします。

11月には、世界的な社会的責任投資株式指数であるDJSI World Indexの構成銘柄に3年連続で選定、小売分野において世界1位を獲得いたしました。

また12月には、環境問題における国際的な評価機関であるCDPより、3年連続で、最高評価の気候変動Aリスト企業として認定されました。

お客さまとの取り組みに関しましては、共創投資先のみんな電力さまとの協業により、9月にエポスカード会員向け再エネ電力購入プランをスタートいたしました。エポス会員とみんな電力さまとのデータ連携により、契約手続きを簡単に行える仕組みを開発するなど、50万人のお客さまと一緒に年間100万トンのCO2削減をめざし、取り組みを進めてまいります。

また、引き続き今回の決算短信にもTCFDについて記載をしておりますので、ご確認いただければと思います。

今後も、ESG経営のフロントランナーになるべく、すべての人が取り残されることなく「しあわせ」を感じられる、インクルーシブで豊かな社会をめざし、ステークホルダーの皆さまと共創サステナビリティ経営に、積極的に取り組んでまいります。

	20年3月期	21年3月期		前年比	前年差
EPS (円)	117.6	72.3		61	△45.3
ROE (%)	8.8	5.3		—	△3.5
ROIC (%)	3.7	3.1		—	△0.6
< 参考 >					
	兆 億円	兆 億円		%	億円
グループ総取扱高	2 9,037	2 9,700		102	+663
売上収益	2,476	2,230		90	△246
売上総利益	1,957	1,795		92	△162
販管費	1,537	1,440		94	△97
営業利益	419	355		85	△64
当期利益	254	155		61	△99

最後に、10ページ、2021年3月期 通期見通し、および11ページ、
<参考>セグメント別利益見通しをご覧ください。

新型コロナ感染拡大第3波による緊急事態宣言発令もあり、今後のコロナ影響は
不透明な面があるものの、第3四半期までは営業利益も概ね計画通りであることから、
業績予想の修正はございません。

決算概要につきましては以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

<参考>2021年3月期 セグメント別利益見通し



	20年3月期	21年3月期	前年比	前年差
	億円	億円		
小売	100	30	30	△70
フィンテック	384	390	102	+6
全社・消去	△65	△65	—	0
連結	419	355	85	△64
*前提条件		11~12月期	下半期	
小売取扱高（店舗・Web）		81%	基調80%（前年比88%）	
フィンテック取扱高（外部加盟店）		106%	基調107%（前年比111%）	



本資料に掲載しております将来の予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。お問い合わせは、I R部 03-5343-0075にご連絡ください。

OIOI
MARUI GROUP